**校長　山本　哲哉**

**令和６年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 多様な選択ができる教育課程、仲間とともに学ぶ主体的で充実した高校生活を通して、自らの「夢」にチャレンジする生徒を育て、希望する進路を実現するための確かな学力が身につく、「進学重視の総合学科」をめざす。  １．主体的な進路選択を支えるガイダンスの充実と、夢チャレンジを具体化する教育活動の展開  ２．ともに学び、ともに育つ学校生活の充実  ３．主体的・対話的で深い学びの実現と、確かな学力の育成  めざす生徒像  １．21世紀をになう人  ２．知・徳・体の調和のとれた人  ３．チャレンジ精神や主体的な行動力をもち、時代の変化に対応できる人  ４．堺東高校から地域社会、そして世界へとはばたく人  ５．人を思いやり、人のために行動できる豊かな心をもち、感性・創造性豊かな人 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　確かな学力の育成と授業改善  （１）授業の充実と授業改善  ア　教員相互の授業公開や研究協議、授業アンケート結果の検証等を通じ、すべての教科・科目等で問題発見･解決能力･論理的思考力を育む探究的な学びの充実に取り組むとともに１人１台端末等ICTを日常的・積極的に活用する授業改善に取り組む。  　※　授業アンケートにおける教材活用満足度をR８年度も90％以上とする。(R３：87％、R４：91％、R５：90％)  　※　生徒の「学校教育自己診断」における「生徒１人１台端末を効果的に活用するなど工夫している」をR８年度も90％以上。(R３：－、R４：84％、R５：93％)  （２）自分の意見をまとめ、相手に自分の考えを伝える能力の向上  ア　「総合的な探究の時間」の充実を図る。  ※　総合学科アンケートにおける「コミュニケーション能力が身についた」をR８年度には80％とする。(R３：76％、R４：78％、R５：79％)  （３）基礎学力の定着と自ら学ぶ意欲・姿勢の涵養  ア　授業充実による学力向上を基本に、講習、補習等で「学力生活実態調査」の再点検を行うなど、基礎学力を定着させ、進路実現に向け最後まで頑張り続ける意欲・姿勢を高めさせる。  ※　「学力生活実態調査」（１､２年）におけるGTZの１年B３､２年C１をR８年度には共にB２とする。(R３：[B３、B３]、R４：[B３、C１]、R５：[B２、B３])  イ　夏季休業中の講習の参加や「進路CAFE」等の利用を促進し、自ら学ぶ意欲を高める。  ※　生徒の「学校教育自己診断」における「授業内容が分からない時、理解できるよう行動した」をR８年度に93%以上とする。(R３：94％、R４：93％、R５：92％)  ２　安全で安心な学校づくり  （１）人権教育の推進（生徒一人ひとりがそれぞれの個性を尊重しあう集団づくりを行い、人権課題に主体的に対応できる力を育む）  ア　自立支援コースの充実を図り、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりを推進するとともに、府内の高等学校における支援教育力の向上に貢献する。  イ　いじめの早期発見・対応、体罰防止など、生徒一人ひとりの人権を尊重する学校づくりを推進する。  （２）教員の人権意識の高揚  　ア　校内人権研修を通じて自らの人権感覚を高め、人権侵害のない学校づくりをめざす。  ※　教員の「学校教育自己診断」における『人権教育の校内研修や学習会は充実している』をR８年度85％以上とする。(R３：60％、R４：75％、R５：85％)  （３）生徒の規範意識の醸成  　ア　生徒指導、人権教育を両輪とした教員からの働きかけに加え、生徒自治会活動などを通じた生徒の取り組みも引き出し、安全安心な学習環境を維持する。  ※　生徒の「学校教育自己診断」における「生活指導上のルールを守っている」をR８年度93％以上とする。(R３：93％、R４：90％、R５：97％)  （４）通学路の安全確保、防災教育の充実と安全・安心な教育環境の確保  　ア　行政とともに学校周囲の歩道整備を計画し、地域の理解・協力も得ながら完成をめざす。  ３　夢の実現にチャレンジする積極的な生徒の育成  （１）キャリア教育の充実  ア　「総合的な探究の時間」「志学」等によるキャリア教育の充実、適切な教育課程の編成、多様な人材の活用や連携による魅力ある教育活動の展開を通して、夢や志を持って自己の可能性を広げ、粘り強くチャレンジする姿勢を育むとともに、自らの人生や新しい社会を切り拓く力を育成する。  ※　生徒の「学校教育自己診断」における「将来の進路や、生き方について考える機会がある」を、R８年度も90％以上とする。(R３：90％、R４：90％、R５：95％)  　※　総合学科アンケートにおける「『夢チャレンジ』では、研究や発表など創意工夫ができる機会を持つことができた」をR８年度には80％以上とする。(R３：73％、R４：73％、R５：79％)  イ　保育所、病院、老人介護施設等へのインターンシップの充実を図り、それぞれの職業への理解を深める。  （２）部活動の充実と学校行事への積極的な参加  ア　「部活動に係る基本方針」に則り、部活動を充実・活性化すると同時に、魅力発信を強化し、入部率の回復、伸長を図る。  ※　部活動入部率をR８年度には75％とする。(R３：71％、R４：64％、R５：65％)  イ　学校行事等の生徒が自主運営する行事の活性化を図り、自己肯定感を高める。  ※　「体育祭」「文化祭」の満足度をR８年度ともに90％以上とする。(R３：[92、86]、R４：[83、88]、R５：[92、93])  ※　総合学科アンケートにおける「自分の考える力や自主性を伸ばすことができた」をR８年度には82％とする(R３：79％、R４：81％、R５：78％)  （３）生徒の対外活動の活性化と地域連携  ア　部活動や授業において、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する。  ４　開かれた学校づくりの推進と情報の発信  （１）ホームページ、連絡網等の充実  ア　学校の情報をタイムリーに保護者・生徒に提供するとともに、地域社会に向けた効果的な広報活動の充実を図る。  ※　HP，校長ブログ等の更新を頻繁に行うとともに、連絡網によるタイムリーな情報発信を行い、保護者の「学校教育自己診断」における情報提供満足度をR８年度も85％以上とする。(R３：88％、R４：82％、R５：85％)  （２）学校説明会の充実  ア　学校説明会、オープンスクール及び、ミニ見学会等の内容を、参加者のニーズに合うようアンケートを取り充実させる。  （３）緊急時の連絡手段の構築と活用  ア　緊急時等における生徒・保護者・教職員の連絡手段の活用を図る。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［令和　年　月実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
| 【学習指導】（※％は肯定率）  ・学習に関して、「全般的にみて授業が難しい」と回答した生徒は85.3％（１年91.3％、２年88.4％、３年75.4％）（昨年84.8％）と微増した。  ・授業に関して、「全般的にみて授業の雰囲気はよい」と回答した生徒は83.1％（１年87.0％、２年84.8％、３年75.4％）（昨年85.8％）と昨年より微減した。また、「１人１台端末を効果的に活用するなど工夫している」と回答した生徒は93.5％（１年94.7％、２年92.0％、３年93.7％）（昨年93.0％）と高位安定していある。但し、「子どもは授業がわかりやすく楽しいといっている」と回答した保護者は57.5％（63.6％）と昨年を下回った。  →今後、生徒の状況を見極めながら、生徒の学習効果を高められるように、教え方の工夫や授業の進度・内容の検討を含めた、授業改善への取組みを続けたい。  ・キャリア教育について、「将来の進路や生き方について考える機会がある」と回答した生徒は93.9％（１年93.5％、２年93.4％、３年95.4％）（昨年95.2％）、「将来の進路や職業、キャリアガイダンスについて適切に指導している」と回答した保護者は88.0％（昨年90.8％）、教員83.6％（昨年84.9％）といずれも昨年よりもわずかに下回った。  ・選択科目について、「選択科目の内容は、全体的にみて期待どおりであった」と回答した３年生は91.8％（昨年80.6％）、「本校の選択科目は生徒の興味・関心に応えている」と回答した教員は87.0％（昨年77.2％）、保護者は85.3％（昨年85.5％）であった。  →引き続き、総合学科として生徒のキャリア教育と支援を充実させ、生徒が自分の進路目標を実現できるための魅力ある学校となるよう工夫に努めたい。  【生徒指導】  ・学校生活に対する意識について、「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒は82.1％（１年83.3％、２年76.9％、３年86.6％）（昨年79.4％）と全体的には増加した、また「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」と回答した保護者も80.0％（昨年79.0％）と微増した。  ・本校の生徒指導に関して、「生徒指導上のルールを守っている」と回答した生徒は95.6％（１年96.5％、２年94.7％、３年95.3％）（昨年96.6％）、また、「学校の生活について先生の指導には納得できる」と回答した生徒は78.3％（１年85.5％、２年68.9％、３年74.3％）（昨年78.0％）と同水準だった。さらに、「学校の生徒指導の方針に共感できる」と回答した保護者も83.7％（昨年83.1％）と同水準だった。  ・本校の人権教育に関して、「生命の大切さや適切な人権感覚、社会のルールを学ぶ機会がある」と回答した生徒は93.1％（１年95.4％、２年92.0％、３年91.2％）（昨年91.6％）、「学校は生徒に生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を養おうとしている」と回答した保護者は84.4％（昨年86.6％）、「本校の人権教育の機会と内容は適切である」と回答した教員は79.6％（昨年92.8％）であった。  ・本校のいじめに対する体制・対応に関して、「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」と回答した生徒は89.9％（１年95.1％、２年81.3％、３年82.8％）（昨年88.7％）、保護者は83.3％（昨年79.4％）、「いじめが起きた際の体制が整っており、迅速に対応できる」と回答した教員は80.7％（昨年88.8％）であった。  →指導方針等について保護者に丁寧に説明をすることや保護者や地域等の意見を参考に、今後も安全で安心な学校づくりへ取り組んでいきたい。  【学校運営】  ・３年生の総合学科アンケートにおいて、「科目選択で選びたい科目を選択できた」と回答した生徒は、大きくポイントが下がった昨年度（77.7％）に比べ、今年度は89.6％と取り戻した。また、「学校行事や学校生活においても、総合学科らしさを感じることができた」と回答した生徒は92.8％（昨年83.5％）と昨年を大きく上回った。「総合学科を選んでよかった」と回答した生徒は95.8％（昨年88.8％）で、満足度は上がっている。  →さらに総合学科の特色や強みを見直し、総合学科の魅力向上に努めていきたい。  ・学校行事について、「文化祭・体育祭などの学校行事は活発である」と回答した保護者は91.8％（昨年93.0％）、教員87.0％（昨年94.6％）また、生徒について、文化祭に89.8％（１年95.0％、２年88.0％、３年93.8％）（昨年92.1％）、体育祭に91.7％（１年92.7％、２年89.8％、３年92.8％）（昨年92.1％）と肯定的な評価を得た。  →生徒会部を中心に、生徒の主体的な活動を一層推進していけるよう学校行事の充実を図っていきたい。  ・教育相談について、「担任の先生以外にも相談できる先生がいる」と回答した生徒は57.5％（１年53.8％、２年48.0％、３年73.2％）（昨年59．3％）、「学校は子どもの悩みや相談に適切に応じてくれる」と回答した保護者は78.1％（昨年78.6％）、「生徒は担任以外の教職員にも相談することができる」と回答した教員は84.3％（昨年90.7％）であった。  →担任が面談等を繰り返し行い、親身に生徒の相談にのっているが、生徒が気軽に相談できる体制の構築に向けて、教員全体が意識をもって今後も取組んでいきたい。  ・「職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」と回答した教員は33.3％（昨年53.7％）、「各仕事の引継ぎがスムーズに行われ継続性がある」と回答した教員は49.1％（昨年61.1％）、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」と回答した教員は63.5％（昨年79.2％）といずれも昨年を大きく下回った。  ・地域連携について、「近隣の学校などと異校種間連携の機会を設け、本校の教育活動に生かしている」と回答した教員は62.8％（昨年70.4％）と減少した。一方、「PTA活動に参加している」と回答した教員は50.0％（昨年46.3％）と微増した。  →昨年度、分掌や委員会の再編整備を行うにあたり、業務の引継ぎは大変重要である。教職員間のコミュニケーションを密に図り、スムーズな業務の引継ぎ、および組織の円滑な運営が行われるようにすることが必要である。またPTA活動をはじめとした地域連携を積極的に参加できるよう職場の環境づくりに努めたい。  【情報提供】  ・学校からの情報提供について、「学校は進路や入試等の情報について知らせてくれる」と回答した生徒は94.5％（１年93.5％、２年93.8％、３年96.9％）（昨年96.6％）、「学校は教育情報について提供の努力をしている」と回答した保護者は84，9％（昨年85.0％）、「教育活動に必要な情報について生徒・保護者や地域への周知に努めている」と回答した教員は78.4％（昨年90.8％）といずれも昨年を下回った。  ・家庭への連絡や意思疎通について、「全般的に学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている」と回答した保護者は74.5％（昨年75.9％）、教員は86.6％（昨年94.4％）であった。  ・地震や台風等緊急時の対応について、「地震や台風等緊急時のマニュアルは適切である」と回答した保護者は85.9％（昨年88.0％）と昨年を下回った。 | 令和６年度 第１回学校運営協議会　７月 22 日（月）  ＜ご質問・ご意見＞ ・マルチメディアルーム新設に関して，どのような授業が行われますか。→「マルチメディア実習」「コンピュータデザイン」の授業で，動画，CM 作成といった実習を行います。情報科の科目を選択した生徒に対する授業となります。入学するにあたって，こういった情報科の授業を選びたい，といった生徒を増やすことが大切かと思っています。  ・人気のある高校は，日常的に使うもの（トイレ・食堂・制服）といった環境設備に定評があります。 こういった設備の充実が必要であるように思います。  ＜ご質問・ご意見＞ ・遅刻が増えているということですが，疾病やそれに近い理由で遅刻してしまう生徒はいますか。 →疾病・心理的要因を理由にした遅刻は増加しているように思います。遅刻について一律に厳しく指導する，ということが難しくなってきています。また，遅刻にたいしての保護者の考え方も変わってきているように感じます。遅刻は本当にいけないことなのか，といった足元から 考えなくてはいけない状況だと認識しています。 →遅刻について、生徒個々に応じた対応が必要だと思います。本校では生徒支援委員会でケース会議を行って対応しています。  ・自立支援コース生が部活動やクラス活動で大変頑張っています。堺東高校に通わせる保護者としてたいへん嬉しく思っています。ありがとうございます。  第２回学校運営協議会 　11月13日（水）   1. 開会 校長より ・令和６年度上期報告   校長 「夢の定義について」目標（登りたい山）と夢（登った時に見える景色） ex）保育士になる→両親の笑顔が見たい 情報系の会社に勤めたい→母親を楽にしたい  ＜ご質問・ご意見＞夢と目標についての認識 そういうことが実現できる学校づくりが大切 生徒の良さ，雰囲気が良い ※地域からの声 保護者の送迎がひどい 特に雨の日 苦情が多くある →地域からも愛される学校であるべき  ＜ご質問・ご意見＞ 夢と目標についての認識 授業での成果 成長は嬉しい 堺東高校の魅力素晴らしい→その魅力の発信を お願いしたい。  第３回学校運営協議会　令和７年１月23日（木）  〈質疑応答・情報共有〉  不登校生徒の増加は勤務する中学校でも課題となっている。子ども同士が協力して課題に取り組むことが不登校対策の一助となっている。自分の意見を言う活動や主体的に活動するプログラムを取り入れることが効果があるように感じている。入試改革については、中学校にとって、試験日の前倒しによって、入試が終わった生徒にどう対応するか、でこれから頭を悩ませることになると予想している。また、学校に行きたくないことを認める、オンラインで授業に参加させるといった、これまでにはなかったことが、これからの普通に起きると考えている。  ・夢チャレンジの授業で、スライドを作成し、子どもが沢山の人に向けて発表できたことにとても感動した。  ・堺東高校は、地震が起きたときに開放する施設となっている。いざ、災害が起きたときに、校内に生徒がいるなかで、避難してくる住民が出た場合に、どのように場所を提供するかなどもこれから考えていくべきだと思う。  □校長　見学会はぜひ検討したい。  ・入試制度の変更があると、変更直後の生徒・中学・高校は大変だと思う。同窓会のメンバーとしては、堺東高校が、統廃合の対象とならず、がんばって対応していていただきたいと思う。  ・自立支援コースの定員は３名で変わらないのか。  良い取り組みなので増やしてほしい。 |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R５年度値] | 自己評価 |
| １    確  か  な  学  力  の  育  成  と  授  業  改  善 | （１）  「主体的、対話的で深い学び」、問題発見･解決能力･論理的思考力の育成、ICTを活用した授業改善  （２）  相手に自分の考えを伝える能力の向上  （３）  基礎学力の定着と自ら学ぶ意欲・姿勢の涵養 | （１）  ア・教員相互に資質を高め合う授業公開や研究協議、教材開発、授業アンケート結果の検証等を通じて、すべての教科・科目等で「主体的・対話的で深い学び」のある授業、問題発見･解決能力･論理的思考力を育む探究的な学びの充実に取り組むとともに、１人１台端末等を日常的・積極的に活用する授業改善に取り組む。  （２）  ア・授業、集会において自分の考えを発表したり、意見を聞いたりする機会を設ける。  イ・SDGs（持続可能な開発目標）の視点も踏まえた「総合的な探究の時間」において、自分の考えを伝え、国際的な視野にたてるグローバル人材の育成をめざす。  （３）  ア・授業充実による学力向上を基本に、講習、補習等で「学力生活実態調査」の再点検を行うなど、基礎学力を定着させ、進路実現に向け最後まで頑張り続ける意欲・姿勢を高めさせる  イ・キャリア教育「夢チャレンジ」や教科指導等のあらゆる教育活動を通じて、学習に向かう態度を育むとともに、夏季休業中の講習等に自ら参加する姿勢を育てる。 | （１）  ア・授業アンケートの「教材活用」における肯定的評価90％以上［90％］  ・学校教育自己診断における「１人１台端末を効果的に活用するなど工夫している」の肯定率90％以上  ［93％］  （２）  ア、イ  ・「産業社会と人間・総合的な探究の時間」においてグループ・個人でのプレゼンテーション、クラス・学年での発表会を、各期（前・後期）で開催する。  ・総合学科アンケートの「コミュニケーション能力が身についた」肯定率80％以上［79％］  （３）  ア・「ガシドリ」の実施等による基礎学力の定着を図り、「学力生活実態調査」1,2年におけるGTZを（B２、B２）にする。［B２,B３］  イ・学校教育自己診断の「授業は理解できた」肯定率78％を維持［78％］  ・学校教育自己診断の「授業内容が分からない時、理解できるよう行動した」肯定率92％を維持［92％］ | （１）  ア・前・後期にそれぞれ１週間の授業公開を実施するとともに、全教員参加の研究授業・研究協議を行い、教員相互で研修を行った。授業アンケート「教材活用」肯定率は90％であった。（○）  ・学校教育自己診断「授業の工夫」の肯定率は94％であった。（○）  （２）  ア、イ  ・総合的な探究の時間「夢チャレンジ」、「産業社会と人間」、「特別活動」等を通じ、夢の追求、共生、SDGｓ等の学びと取組み、課題研究へと切れめのない学びと成長の過程を経て、自らの意見をプレゼンテーションできる力を育みつつ、キャリア教育を展開している。（○）  ・総合学科アンケート「コミュニケーション能力が身についた」の肯定率は91％であった。（◎）  （３）  ア・日常の課題に加え、夏休み前の「ガシドリ」の実施により、基礎学力の底上げ・定着を図った。今年度第２回の「学力生活実態調査」における1,2年GTZは一昨年の（B２、B３）を受け（B２、B２）を目ざしたが、（B３、B３）にとどまった。（△）  イ・学校教育自己診断（生徒）における「授業は理解できた」の肯定率が、79％であり、維持できている（○）  ・学校教育自己診断の「授業内容が分からない時、理解できるよう行動した」肯定率92％を維持(〇) |
| ２  安  全  で  安  心  な  学  校  づ  く  り  ２  安  全  で  安  心  な  学  校  づ  く  り | （１）  人権教育の推進  ア　「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進  イ　いじめ防止  ウ　仲間づくり  エ　自立支援コースの成果の府内での共有  （２）  教員の人権感覚や人権意識の高揚  ア　人権研修の充実  イ　教育相談体制の充実  （３）  生徒の規範意識の醸成  （４）  通学路の安全確保、防災教育の充実と安全・安心な教育環境の確保  （５）  働き方改革の推進 | （１）  ア・「自立支援コース」生徒の授業交流の機会を保障するとともに支援学校との交流の継続実施  　・障がい者理解、SNSなどの人権学習をはじめ、あらゆる教育活動において人権・多様性を尊重する教育を推進し、自他の違いを認め権利を尊重し、人権課題に主体的に対応できる力を育む。  イ・いじめはどこにでも起こりうることを認識し、教職員一人ひとりが敏感で寄り添う指導ができるよう資質の向上に努めるとともに、「いじめ防止基本方針」に則り組織的に取り組む。  ウ・HR活動等における仲間づくりや、授業・行事で生徒が協同して取り組む活動を積極的に行うとともに、教職員・生徒ともに挨拶を励行する。  エ・高等学校支援教育力充実事業支援教育サポート校として、府内の高等学校における「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。  （２）  ア・様々な人権課題の中から人権研修を年間２回開催し研修の充実を図る  イ・生徒一人ひとりの心身の状況把握に努めるとともに、教職員から生徒への声掛けなど生徒が気軽に相談しやすい関係の構築、全体で教育相談にあたる意識の醸成など、組織的な教育相談体制の充実に取り組む。  （３）  ア・生徒指導、人権教育を両輪とした教員からの働きかけに加え、生徒自治会活動などを通じた生徒の取り組みも引き出し、安全安心な学習環境を維持する。  イ・外部講師などによる講演を実施し情報モラル、交通ルール遵守の姿勢を育てるとともに、薬物乱用防止教育に取り組む。  （４）  ア・堺市建設局、地域自治会の協力を得て学校周辺の歩道整備を推進する。  イ・緊急事態に対処できる実効性のある防犯計画、救急体制を確立するため、適宜点検・見直しを行うとともに、地域住民・警察等関係機関と連携した安全対策に取り組む。  （５）  ア・好事例を参考として、できることから着手するなど、「働き方改革委員会」で検討を進め、校務運営の効率化を推進する。  イ・学校部活動に係る活動方針に基づき部活動時間を圧縮するため、部活動指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 | （１）  ア・「自立支援コース」生徒の交流授業を６教科で実施し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。［６教科］  ・支援学校との交流を２回実施［２回］  ・「学校教育自己診断」（保護者）における「人権感覚を身につけている」肯定率90％以上［94％］  イ・学校教育自己診断における「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率85％以上を維持［89％］  ウ・学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」肯定率77％以上［79％］  エ・要請を可能な限り承諾し、府内高等学校の支援教育力向上のため、他校教員も参加する情報交換会・研修会を３回以上実施する。［情報交換会５回、研修会３回］  （２）  ア・学校教育自己診断（教員）「人権教育の校内研修や学習会は充実している」肯定率82％以上［85％］  イ・学校教育自己診断の「担任以外で相談できる先生がいる」肯定率60％以上［59％］  （３）  ア・学校教育自己診断「生徒指導上のルール」を守っている肯定率93％以上［97％］  イ・外部講師による情報モラル(SNS含む)、交通安全、薬物乱用防止指導それぞれ１回実施する。［各１回］  （４）  ア・堺市建設局、地域自治会との協議を継続し、歩道整備を進める。  イ・関係機関や地域と連携した実践的な防災避難訓練を年１回以上実施する。［１回］  （５）  ア、イ  ・ICTの更なる活用による会議時間縮減とペーパレス化、業務整理・改善、部活動指導時間等の見直しを進め、年間平均時間外在校等時間を前年度より５％縮減することをめざす。［R５：35.6時間］ | （１）  ア・理科・社会・保健体育・芸術・家庭・情報の６教科の授業で「自立支援コース」生徒が原学級でともに学ぶとともに、総合的な探究の時間、HR活動、学校行事等でともに学ぶ機会を創出している。（○）  ・７月および12月に堺支援学校高等部３年生との交流会を実施した。（○）  ・「学校教育自己診断」（保護者）における「子どもは適切な人権感覚を身につけている」の肯定率は93％（○）  イ・アンケートの実施や生徒への聞き取り等、組織的な対応を行い、学校教育自己診断「いじめ対応」の肯定率は90％であった。いじめ防止基本方針により年間計画通り委員会を開催し、情報共有を行っている。（○）  ウ・生徒主体の学校行事の実施など、充実した学校生活を送ることができるよう取り組み、「学校へ行くのが楽しい」肯定率は92％であった。（◎）  エ・高等学校支援教育力充実事業支援教育サポート校として、相談要請への対応、支援教育コーディネーター連絡会３回、府内自立支援推進校担当者連絡会２回、教職員研修（サポート校公開研修）３回を開催した。（◎）  （２）  ア・７月に宝塚大学日高教授を招聘「っジェンダー問題」について、12月には近畿大学心理学教授を講師に招き「応用行動分析」について教職員人権研修を実施学校教育自己診断（教員）「人権教育の校内研修や学習会は充実している」肯定率は高い水準で維持している。85％（〇）  イ・相談窓口の周知や教職員間の定期的な情報共有などにより、相談しやすい体制づくりを行ったことで、学校教育自己診断「担任以外で相談できる先生がいる」の肯定率は58％とほぼ同等水準をキープしている。（〇）  （３）  ア・生徒との対話や人権を大切にした取り組み、生徒主体の自治活動の活性化などにより、学校教育自己診断「生徒指導上のルールを守っている」肯定率は96％を維持している。（◎）  イ・情報モラル教育、交通安全教育、薬物乱用防止教育それぞれに、外部講師を招いて講習会を各１回実施した。（○）  （４）  ア・堺市での予算確保の見通しが立っていないが、現状について地域自治会と情報共有するとともに、地元市会議員へも申し入れを行っている。（○）  イ・消防署にも協力を仰ぎ実施２回(〇)  （５）  ア、イ・職員会議や日々の業務連絡等におけるICT活用とペーパレス化、時間外の外線への不在メッセージ対応、全校一斉定時退庁などの実施により業務負担の縮減を図り、時間外在校等時間の縮減に努めたが、同等数字で成果にはなっていない「11月35.9時間」（△） |
| ３  夢  の  実  現  に  チ  ャ  レ  ン  ジ  す  る  積  極  的  な  生  徒  の  育  成  ３  夢  の  実  現  に  チ  ャ  レ  ン  ジ  す  る  積  極  的  な  生  徒  の  育  成 | （１）  キャリア教育の充実  ア　系統立てたキャリア教育の推進、魅力ある教育活動  イ　インターンシップの充実  （２）  ア　部活動の充実と学校行事への積極的な参加  イ　生徒による学校行事等の自主運営  （３）  ア　学外活動への積極的な参加と地域連携 | （１）  ア・「産社」「志学」「総合的な探究の時間」「HR」等の系統立てた組み立てによりキャリア教育を一層充実させ、選択科目と希望進路の親和性を高めるとともに、適切な教育課程の編成、多様な経験や専門性を持った人材の活用や、地域・大学・企業等との連携の充実を図った魅力ある教育活動を展開し、自らの人生や新しい社会を切り拓く力を育成する。  イ・保育所、病院、老人介護施設、医療系大学等へのインターンシップの継続  （２）  ア・「部活動に係る活動方針」、「部活動の適切な運営」に則り、部活動を充実・活性化すると同時に、各部の活動状況や成果についての情報・魅力発信を強化し、入部率の回復を図る。  イ・体育祭生徒準備委員会を発足させ、実施競技や応援方法等の再検討を行うなど、「体育祭」「文化祭」「クラスマッチ」、「修学旅行」等の生徒が自主運営する行事の活性化を図り、生徒の主体的な活動を支えることで、自主性の伸長を図る。  （３）  ア・地域小学校との交流の継続  イ・地域のイベントやボランティア活動への参加 | （１）  ア・学校教育自己診断における「将来の進路や、生き方について考える機会がある」肯定率90％以上の維持［95％］  ・総合学科アンケートにおける「『夢チャレンジ』では、研究や発表など創意工夫ができる機会を持つことができた」の肯定率79％を維持[79％]  イ・保育所、病院、老人介護施設、医療系大学等へのインターンシップ等を昨年度と同程度の回数実施する[14回]  （２）  ア・体罰ゼロの継続  ・クラブ紹介の充実やHP・ブログ等による活動状況等の情報・魅力発信を強化し、入部率を70％まで回復させる ［65%］  イ・「体育祭」「文化祭」の満足度をともに90％以上[体育祭92％、文化祭93％]  ・総合学科アンケート「自主性を伸ばすことが出来た」80％以上［78％］  （３）  ア・地域小学校との授業交流を１回以上実施する［２回］  イ・地域のボランティア活動を昨年度と同程度の回数実施する［120名］ | （１）  ア・学校教育自己診断における「将来の進路や、生き方について考える機会がある」肯定率94％以上の維持は行えている。(〇)  ・総合学科アンケートにおける「『夢チャレンジ』では、研究や発表など創意工夫ができる機会を持つことができた」の肯定率87％を高水準維持(〇)  イ・老人介護施設はじめ、保育所、病院、老人介護施設、医療系大学等での体験実習を含むインターンシップについて、14回を実施することができた。（○）  （２）  ア・今年度・出席簿で生徒の頭をはたく現象が起こり、生徒と保護者にお詫びし理解を得た案件が一回あった。安全で安心な教育をさらに継続する。（△）  ・年度当初のクラブ紹介で魅力発信するなど入部率回復に努力した結果、全学年では66％であった（△）  引き続き部活動の魅力発信を強化して、入部率の回復に努める。  ・体育祭、文化祭ともにコロナ関連の制限をなくし、生徒が主体的に企画・運営するよう準備した結果、体育祭、文化祭の満足度は92％、92％であった。（○）  ・「自主性を伸ばすことが出来た」（総合学科アンケート）肯定率は90％で目標を大きく達成した。（◎）生徒の主体的な活動を支えることで、自主性の伸長を図りたい。  （３）  ア・福祉系選択科目で実施している障がい者の介助について、地域の小学校の総合的な学習の時間に合わせて交流を行い、高校生が小学生に教える取組みを２回継続している。（○）  イ・ボランティア部による地域でのボランティア活動や運動部員等による地域イベントへの参加をはじめ、教職員も地域活動に参画し、継続的な交流を行っている。  ・地域のボランティア活動120名（○） |
| ４  開  か  れ  た  学  校  づ  く  り  の  推  進  と  情  報  の  発  信 | （１）  ア　ホームページ、連絡網等の活用  （２）  ア　学校説明会での情報発信 | （１）  ア・ホームページ、連絡網等を活用し学校の情報をタイムリーに保護者・生徒に提供してニーズに応えるとともに、地域社会に向けた効果的な広報活動の充実を図る。  （２）  ア・参加者のニーズをとらえた学校説明会、ミニ見学会を開催するとともに中学校等から依頼のある説明会に積極的に参加 | （１）  ア・ホームページ、ブログ等の更新、連絡網によるタイムリーな情報発信により、学校教育自己診断（保護者）における「教育情報について、提供の努力をしている」肯定率85％以上［85％］  （２）  ア・生徒・保護者のニーズを把握するため、学校説明会等において、「説明のわかりやすさ」「学校に対する興味」などのアンケートを毎回実施する。 | （１）  ア・クラウドサービスおよび学年ブログを活用し生徒・保護者への確実で迅速な連絡を行っている。学校の特色と魅力発信のため、学校説明会は合同５回、単独は７回を実施。  　　教育庁指定の「生徒が主導するSNSモデル校に認定され公式インスタグラムを開始情報を提供した。  　　保護者の学校教育自己診断における「教育情報について、提供の努力をしている」肯定率85％（○）  （２）  ア・体育祭、文化祭、日常の学校生活等それぞれの様子を紹介するコンテンツ（スライドショー等）を作成し、生徒の協力も得て、学校の様子がより良く伝わるよう魅力発信している。（○）  10月オープンスクールのアンケートを毎回実施、募集戦略に生かしている。」 |